

カタツムリの歌

murakami

カタツムリの歌

夏のある日、森のなかでアングリーが昼寝をしていると、かすかな歌声が聞こえてきました。

木登り大好き～
葉っぱも山も好き～♪

「おや、誰だろう」

目をさましたアングリーがそばの木を見ると、カタツムリの親子が這っていました。

「こんにちは。楽しい歌ですね」

「やあ、クマさん、こんにちは」

「お散歩ですか？」

「海を見に行くところなんです」

「そうでしたか。でも、海まではとても遠いですよ」

「ええ。聞いています。わたしたちのおじいさんのそのまたおじいさんのころからずっと海をめざして進んでいるのです」

横からカタツムリの子どもがいました。

「ボクの子どものそのまた子どものころにはきっと海につけると思うんだ」

アングリーは少し迷いました。自分の頭の上にみんなを乗せて走っていけば、ずっとはやく海につくことができるからです。

「どうしたのですか？」

カタツムリが不思議そうに聞きました。

「いいえ、なんでもありません。それでは、良い旅を」

「はい、またお会いしましょう」

雨が好き、虹が好き
右巻き うずまき
ぐるぐるぐる～♪

カタツムリたちの金色に光る足跡がほんの少しずつのびていきます。

アングリーが大きく深呼吸すると、かすかに潮風の香りがしたような気がしました。